

：プラン復帰への身体的活動び復帰及への学習 情報のための生徒と両親

背景

が可能性ぼす及を影響きな大に身体的能力び認知的及の生徒しんとうが脳、により調査の最近しんとう脳の生徒に実際が活動な必要が集中力、は調査事実。らかになりました明あることが生「する復帰に学習」での教室。こすことがあるとしています起き引を悪化は再発又の症状の識別及。なので重要に同様けるのと助ことを「する復帰に身体的活動」、けることは助を徒場る至に死ですが稀、があり可能性となる脳障害な永久的しんとうは脳がないと管理な適切び。ありますも合

目二度に前がなくなる症状しんとうからの脳の最初の彼女は彼又が青少年は子供又、又は調査で急速) 症候群セカンドインパクトことによると、かかり長期に回復こすと起しんとうを脳にして示唆になりやすくなると (症状な稀こす起き引を結果の場合最悪くの多び脳腫脹及の重度。います

に方法する管理に適切しんとうを脳された診断そして、すること認識を症状び兆候及の脳腫張戻く早に身体的活動はあるい学習が生徒さらに、であり重大において回復の生徒は知識する関のと結局。です必要に絶対けることは助すことから冒を危険の合併症、ぐこと防りすぎるのをけることができるので助を貢献のへ成功な学問的と健康な長期的の生徒、が知識と認識、ころ。アプローチです共同の学校間と家庭、のサポートは生徒しんとうの脳。す

定義しんとうの脳

：はしんとう脳

- 例) 認知的、(目眩、頭痛えば例) 身体的、しこ起き引を変化に仕方の機能の脳感情的、(低下の力記憶は又力集中えば/ 入眠障害、眠気えば例) する関に睡眠は又(いりっぽ怒、うつ憂えば例) 行動的。です脳損傷となる原因の症状のある可能性(
- となるよう原因く動に急激が脳で頭蓋骨内は又、衝撃な直接的への首は顔又、頭があります可能性こされる起き引に為けた受に身体を衝撃わる伝が振動に頭、な。
- 意識喪失しんとうは脳どの殆、実際) があります可能性こる起せずとも意識喪失。(こります起せず)
- Xな標準的、線写真CTは又スキャンMRI。かりません通常分では

診断しんとうの脳

脳、のために子供。です臨床診断う行はナース・プラクティショナーが医師又、しんとうは脳重要ことがける受を診察はナース・プラクティショナーの医師又は生徒いのある疑しんとうの。されることになりまます制限は参加の身体的活動の生徒、は場合ないが医療記録。です**
フォーム) 「するためのツール識別いを疑しんとうの脳」 C-
2観察」及び (/フォーム) 「文書する関フォームに診察C。してください参照を (3

症状び兆候及な一般的しんとうの脳

以下、けたあと受に体を衝撃わるような伝が振動に頭あるいは、ける受を衝撃に首は顔又、頭わなければなら疑しんとうを脳、は場合する存在が以上はそれ又つ1のうちどれか症状や兆候の。りません

	兆候な危険された観察 親、例えば) 他人、とは兆候/ スーパーバイザ、コーチ、教師、保護者 するものです観察が (クラスメート、一 。	症状な危険された報告 生徒、とは症状/じる感が競技者/ 。するものです報告
：身体的	<ul style="list-style-type: none"> ● 嘔吐 ● らない回ろれつが ● 低下の反応時間 ● 低下はバランスの協調又 ● 凝視ぼんやりと/つき目わたった据 /視線はうつろな呆然又 ● 減退の運動能力 ● 欠如の反応性は意識喪失又 ● たわって横きせず身動で地面 い遅がるのが上き起は又る ● 記憶喪失 ● 痙攣は又てんかん ● える抱は又む掴を頭 	<ul style="list-style-type: none"> ● 頭痛 ● 圧迫感の頭部 ● 頸痛 ● れない優が気分/ しっくりしない ● り耳鳴 ● える見はぼやけて二重又が物 /失明 ● える見が点滅灯や星 ● み痛の外傷部位の身体 ● 気き吐/腹痛/み痛 ● 目眩は平衡障害又 ● 疲労感は倦怠感又 ● 過敏症への音は光又
：認知的	<ul style="list-style-type: none"> ● 集中力低下 ● 注意散漫 ● 混乱な一般的 ● 記憶こったことの起に怪我前後 がない ● 彼/ 時間の活動している参加が彼女 種類、クラス、場所、にち日、 からない分が ● に質問えば例) 低下の反応時間 (う従に指示、える答 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低下の記憶力は集中力又 ● エ低は倦怠感又、い悪が効率 エネルギー ● れる暮に途方は放心状態又
：感情的	<ul style="list-style-type: none"> ● え例) 感情な不適切は又な奇妙 (る怒、く泣、う笑すぐには 	<ul style="list-style-type: none"> ● よ普段、しい悲、りっぽい怒 感情的りも

		<ul style="list-style-type: none"> ● うつ憂、不安、神経質
：睡眠	<ul style="list-style-type: none"> ● 眠気 ● 不眠症 	<ul style="list-style-type: none"> ● そう眠 ● い多が睡眠より普段/ない少 ● 入眠障害

：注意

- 数日あるいは数時間するのに表面化、ばれることもあれ現がすぐに症状び兆候及。
。もあります可能性かる掛
- 。があります可能性なる異によって人は症状び兆候及
- 彼、は生徒/彼、される外から活動が彼女/立場はゲームでの又のチーム彼女
のために不安ことになるというぼされる及が影響に学業あるいは、うくなる危が
。があります可能性したがらない報告を症状
- 英語は生徒又な必要が特別支援/、にとって生徒ではない第一言語が語フランス
。があります可能性しい難えることは伝をがどうか具合
- のものほどはっきりしない生徒の高年齢、は兆候の（歳未満10）生徒の低年齢
。があります可能性

両親の場合われる疑しんとうが脳/情報のための保護者

のあいだいかな時間24、は生徒いのある疑しんとうの脳、により定義しんとうの脳。できません参加へも身体的活動る

：場合される観察が症状び兆候及	場合されない観察が症状は兆候又 ：
<p>親/：は保護者</p> <p>-</p> <p>するためのツ識別いを疑しんとうの脳」 フォーム) 「ルC-</p> <p>2. されます提供のコピーを (</p> <p>-</p> <p>はナース・プ医師又、く早も一刻に日その 必ける受が生徒を診察ラクティショナーの 。されます通知があると要</p> <p>-</p> <p>に校長の学校、に前する復帰に学校が生徒 しんとう脳された診断が生徒) 結果の診察 がある/ されま通知があると必要する連絡を (ない 。す***フォームC-</p> <p>してください参照を「文書する関に診察」 3 。い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>場される診断しんとうではないと脳 合:</u> を身体的活動び学習及の通常は生徒 。することができます再開 ● <u>場合された診断しんとうであると脳</u> 医に共と支援チームの学校は生徒： 学」に徐々び個別的及で管理下の師 復帰への習/ い従に「プラン復帰への身体的活動 	<p>親/：は保護者</p> <p>-</p> <p>するためのツ識別いを疑とうのしん脳」 フォーム) 「ールC-</p> <p>2. されます提供のコピーを (</p> <p>-</p> <p>表面化、れずに現がすぐに症状び兆候及 可能かる数日掛あるいは数時間するのに 。されます通知があると性</p> <p>-</p> <p>のあいだ時間48ー24を生徒、事故後 しが念押ししなければならないことの観察 。あります</p> <p>-</p> <p>場合する表面化が症状は兆候又いかなる はナース医師又く早も一刻に日その、も 必ける受を検査の一ナヨシイテクラブ・ 。されます通知があると要***フォームC</p> <p>-</p> <p>してください参照を「文書する関に診察」 3 。さい</p>

。ます	
-----	--

管理手順しんとうの脳された診断

復帰への学習/プラン復帰への身体的活動

復帰への学習」に徐々に個別的及で管理下の医師、は生徒された診断しんとうと脳/
「復帰への身体的活動び復帰及への学習」。があります必要う従に「プラン復帰への身体活動
の通常、は生徒された診断しんとうと脳、わされているとはいえ合み組に中がプランの過程の
。になければなりません状態がない症状に前する復帰に学習活動

しん脳。となっていてます個別的たすように満を要求な特別の生徒、は過程の「復帰への学習」
彼、が生徒とうのある/

まったやり決もってセットされた前のるため練を対策する支援をするの復帰へ学習活動の彼女
段階められた認に国際的、は過程の「復帰への身体的活動」、に対照的。などはありません方
。っていきます従めるアプローチに進を歩に的

：です重要することが注意に以下

- 。があります可能性こす引きを再発の症状の生徒が身体的活動は認知的又
- けなければならず掛を時間24最低ステップは各ではありません-日数は数ステップ
によ生徒び重症度及しんとうの脳さは長の時間な必要するのに完了テップを各、
。なります異り

復帰への学習/：1ステップ復帰への身体的活動

。しません登校のあいだは1ステップ、は生徒。します完了で自宅ステップは本

：（身体的び認知的及）です休息は治療な重要も最しんとうの脳

- え例) みます含することを制限を活動とする必要を注意び集中力及、は**認知的休息**
ビデオ、コンピューター、テレビ、テキストング、読書ば/。(ゲーム電子
- 娯楽、は**身体的休息**/
。みます含することを制限を身体的活動しい激の競争び及らし気晴

：します迄継続になる状態の以下び及、のあいだ時間24最低、は1ステップ

- 、は又める始し改善が症状の生徒
- 両親/。状態ないが症状に生徒、い従に判断の生徒こした起しんとうを脳び及保護者

□ 親/：保護者

親、に前る戻に学校が生徒/フォーム、は保護者C-4復帰への学習」/

しなければ連絡に校長をのいずれかであるか以下して使用を「プラン復帰への身体的活動：なりません

- 2ステップ復帰への学習」は生徒、しており改善は症状の生徒a、は又。みまず進へ「
- 2ステップ復帰への学習」、なくは症状に生徒b。みまず直接進へ「2ステップ復帰への身体的活動」及び「

2ステップ復帰への学習a:

への学習」、ることができ戻に学校は生徒の症状している改善くなっていないががな症状まだ2ステップ復帰-a。することができまず開始を「***。しなければなりません継続は身体的休息

彼だ未しんとうが脳。ります戻に学校で復帰への教室された監視は生徒、ステップでは本/認知的活の生徒、ステップのあいだは本、がため可能性ぼしている及を影響に学習能力の彼女。(両方共の家庭、学校) やしていかなければなりません増はゆっくりと動

があります可能性こす引き引を悪化は再発又の症状しんとうの脳の生徒、は認知的活動：注意。

□ 親/：保護者

フォームC-

4復帰への学習」-「文書しんとうのための脳された診断」：/

2ステップ復帰への学習」が生徒、して使用を「プラン復帰への身体的活動bがないこと症状に生徒に前むことができる進に「2ステップ復帰への身体的活動」及び「。しなければなりません連絡に校長を

2ステップ復帰への学習b:

**。します発生に同時と「2ステップ復帰への身体的活動」ステップは本

。のためのものです生徒の以下ステップは本

- a) 2ステップ復帰への学習」 a。生徒ないが症状は今、してよくなり通を「

は又

- b) 復帰への学習」又、がなくなり症状しんとうのあとすぐに脳/。生徒した終了を「1ステップ復帰への身体的活動

兆しんとうの脳、めまずが始し復帰に学習活動での教室の通常は生徒、ステップでは本：注意は生徒、はいつでも場合する発生が悪化の能力は作業習慣又あるいは、する再発が症状は候又。けなければなりません受を再検査はナース・プラクティショナーの医師又

□ 親/：保護者

復帰への学習」及び結果の医療訪問の後その/
ること戻に学校が生徒、することを再開なステップを適切な「プラン復帰への身体的活動
にフォーム前ができるC-
4復帰への文書-学習とうのためのしん脳された診断」/
。しなければなりません連絡に校長して使用を「復帰への身体的活動

： 2 ステップ復帰への身体的活動

：活動

ウォーキッド保に以下70%の最大許容心拍数を強度えば例)のみ有酸素運動の軽度な個人的
。(サイクリングマシンは又、水泳、ング

：制限

。(む含を練習試合、練習)試合禁止。禁止はウェイトトレーニング又トレーニング筋力
。身体接触禁止。禁止反復練習。参加禁止との生徒の他はその又いる用を用具

：目的。させること増加を心拍数

□ 親/：保護者

フォームC4復帰への文書-学習しんとうのための脳された診断」：/
が症状に生徒ためにめる進に3がステップ生徒、して使用を「プラン復帰への身体的活動
。しなければなりません連絡に校長していることを続が状態ない

： 3 ステップ復帰への身体的活動

：活動

練習ホッケーのスケートの、練習る走サッカーのえば例)のみ身体的活動の競技特有の個人用
。(練習反復バスケットボールのシュートの、

：制限 トレーニング筋力/。(む含を練習試合、練習)試合禁止。禁止ウェイトトレーニング
え与を不快感の他はその又(えばサッカーのヘディング例)頭部衝突活動禁止、身体接触禁止
。(つ打のボールを野球バットで、まる突然止り走る速えば例)き動く

：目的。えること加きを動

： 4 ステップ復帰への身体的活動

：活動

めることが始トレーニングを漸増抵抗。(バドミントン、えばダンス例)活動がない身体接触
えばフット例)めていきます進に訓練トレーニングな複雑に更び練習及しない接触。できます
。(反復練習ボールやアイス・ホッケーのパスの

: 制限

不快感の他はその又活動がある（例えばサッカーのボールのヘディング例）頭部衝撃、身体接触。禁止（つ打のボールを野球バットで、まる突然止り走る速えば例）き動える与を

: 目的。やすこと増を認知的負荷、協調、運動

□ 親/: 保護者

又身体的活がなく症状に生徒、ためにめる進に「5ステップ復帰への身体的活動」が徒生フォームす示することができることを復帰に参加な完全して関に動C4

復帰への文書-学習しんとうのための脳された診断」:/

はナース・プラクティショナ医師又による書面、して使用を「プラン復帰への身体的活動。しなければなりません提供に校長を文書一からの

: 5ステップ復帰への身体的活動

: 活動

身体的教育の通常における競技のない接触/活動の校内/のためのトレーニング競技のある接触。参加に完全にて活動全の学校間/。復帰への練習

: 制限。禁止（イベント、試合、えばゲーム例）試合のある接触身体

: 目的 先生び及、すること回復を自信/。すること評価を能力の機能性コーチが

□ 親/: 保護者

フォームする承認れなかったことを現も症状も兆候の何、にのあと練習のある接触C4

復帰への文書-学習しんとうのための脳された診断」:/

に6はステップ後子供その。しなければなりません記入を「プラン復帰への身体的活動。することができます参加に競技のある接触、み進

: 6ステップ（のみ競技のある接触）復帰への身体的活動

: 活動。参加な完全への競技のある接触

: 制限。なし